一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤　麻美　様

皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお慶び申上げます。

日頃からの貴団体の活動につきまして、心より敬意を表します。

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会　第６２回全国大会　「心臓病だけど働きたい！　～企業と産業医とわたしのホンネ～」御開催にあたり、一言御祝いを申上げます。

昨年度の前半より、新型コロナウイルス感染症の分類が見直され、各機関等におかれます行動様式も変化してまいりましたが、医療機関をはじめ多くの現場では慎重な対応や工夫に努めていらっしゃることと存じます。

病気に対する不安に加えて、地震や大雨など自然災害への対応のことを考えますと、様々な障害を抱える子どもたちを支える保護者の皆様や周りの大人による共通理解と連携が大切であることを改めて強く感じております。

こうした中、貴団体が全国大会を続けている意義はとても大きいと考えます。私ども全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会も、全国の障害児・者への理解に努めるとともに、他団体の皆様との連携を深めるなど、一層の努力をしてまいりたいと思います。

全国の心臓病の子どもたち一人一人の自立に向けて、保護者の方々が笑顔で子育てできますよう、医療機関や学校・療育機関が協力し合って、よい学びの場となり、第６２回全国大会が成功のうちに終えられますことを祈念し、御祝いの言葉とします。

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
会長　大関　浩仁

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤　麻美　様

メッセージ

全国心臓病の子どもを守る会第62回全国大会の開催にあたり、心より連帯のご挨拶を申し上げます。

1月１日に発生した「令和6年能登半島地震」では、いまだ地震発生当時と変わらない地域もある中、多くの住民の方々が避難生活を余儀なくされています。復旧・復興は政治の優先課題です。万博の誘致に機材を回すのではなく、被災地への仮設住宅の建設を優先させ、いのち・くらし・生業を守るための予算を大幅に増やすことが求められます。

新型コロナウィルスに関わっては、感染症法上の位置づけが5類に引き下がり1年以上が経過をします。日本医労連が実施した、2024年「看護職員の入退職」に関する実態調査では、4月の募集人員に対して、「充足していない」医療機関が約7割、充足率は全体平均で6割と極めて低い実態が浮き彫りになりました。医療現場のコロナ禍は終わっておらず、いまだ使命感で踏ん張っています。期待したケア労働者の賃上げも不十分です。こうした状況が看護師のやりがいを奪い疲弊し職場を離れていく職員が後をたたない深刻な実態となっています。この人手不足が解消できない場合、地域から病院が消える事態になりかねません。

そうした中、岸田政権は、医療崩壊が現実のものとなったその反省もないまま5年間で43兆円もの軍事費の財源確保のひとつに、新型コロナの最前線で奮闘してきた公的病院の積立金を、前倒しで国庫に強制返納させました。防衛費に莫大な予算をつぎ込むのではなく、国民のいのちを守る医療や介護の提供体制の拡充と、看護・介護の現場の役割に見合う大幅賃上げが必要です。

実質賃金は減り続ける中での物価の高騰など、先の見えない状況は国民のいのちと暮らしに深刻な事態を及ぼしています。そうした中で自民党の中枢で組織的に行われていた裏金づくりは、金権政治そのものであり、腐敗しきった政治を終わらせることが必要です。

新たな感染症や自然災害など不測の事態においても、国民のいのち・人権が守られ、憲法が活かされ、誰もが人間らしく平和な中で生き・働き続けられる職場と社会に転換させるため、共にがんばりましょう。

2024年10月27日

日本医療労働組合連合会
中央執行委員長　佐々木悦子

２０２４年１０月１８日

一般社団法人 全国心臓病の子どもを守る会

会長　大澤　麻美様

第６２回全国大会メッセージ

第６２回全国大会「心臓病だけど働きたい！仕事と健康、両立の秘訣～企業と産業医とわたしのホンネ」の開催、誠におめでとうございます。新たに就任された大澤会長のもとで、準備に尽力された関係各位のご努力に心より敬意を表します。

ご参加の会員の皆様全員が全国大会で有意義な時間を過ごされるとともに、併せて、心臓病の子どもたちにとってかけがいのないない存在である貴法人の今後ますますのご発展とご活躍を祈念いたします。

一般社団法人 日本筋ジストロフィー協会

代表理事　竹田（たけだ）　保（たもつ）

第 62 回「全国心臓病の子どもを守る会」全国大会によせて

第 62 回全国大会の開催、まことにおめでとうございます。
心臓に疾患のあるお子様を抱えて、活動されていることに私たちとは、また違ったご苦労がおありだと思います。医療も進み、社会の考え方も少しずつ変化してきておりますが、病気や障害があっても、当たり前に働き、暮らすには、まだハードルがあります。
今回のテーマは「心臓病だけど働きたい!仕事と健康、両立の秘訣~企業と産業医とわたしのホンネ~」です。ぜひ、議論が活発になされ、一人ひとり違うとは思いますが、働くうえでの合理的配慮が明確になり、病気があっても、働きたいという希望が叶えられる社会になることを願っております。社会や企業の理解がさらに進み、子どもたちがあらゆる場面で、希望が叶うことのできる社会を目指して活動していきましょう。

一般社団法人　全国手をつなぐ育成会連合会　佐々木桃子

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
会　　長　　大澤　麻美様

メッセージ

　一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会の皆さん、第 62 回記念全国大会「臓病だけど働きたい！仕事と健康、両立の秘訣～企業産業医とわたしのホンネ」の開催おめでとうございます。
　会創設以来、長年にわたり活動され、このたび、62 周年を迎えられるとのこと、心よりお祝い申し上げます。心臓病児・者の方々やその御家族が抱える様々な問題について、各分野の専門家の皆様も、日頃より御尽力頂いていることに、心から敬意を表します。
　日々、「命」と、向き合いながら成長し成人後も生活をしていく中で就業や日常生活の困難など様々なことがおきるとの問題提起もありました。
　私ども全医労の仲間が働く国立病院も今も医療・介護・保育の現場も含め厳しい状況が続いていますが、国民の命を守るため日々奮闘しています。引き続き公的医療機関を支え地域医療を守り続けるため、他の医療機関では実施が困難な分野をセフティーネットとして支える重要な役割を担っている国立病院の機能強化を求めた国会請願署名が請願採択されました。具体化をするために今年も取り組んでいきます。
　心臓病児者の皆さんの病児・者本人、親、支え続けている方々と一緒に、自分らしく生きていけますように、生きる勇気を育むよりどころとなり続けることを心より祈念申し上げメッセージとさせていただきます。

2024 年 10 月 27 日

全日本国立医療労働組合
　委員長　前園　むつみ

メッセージ

全国心臓病の子どもを守る会第 62 回全国大会の開催にあたり、全教を代表して、心からお祝いと連帯の挨拶を申し上げます。日ごろより、心臓病を抱える患者のみなさんのために奮闘されておられることに心から敬意を表するものです。

新たに自民党総裁に選出された石破茂氏は 10 月 1 日に石破内閣を発足させました。石破氏は総裁選で、「国民が判断できる材料を提供することは政府の責任であり、新総理の責任だ」「本当のやりとりは予算委員会だと思っている」と、早期解散に慎重な姿勢を示していましたが、手のひらを返したように、9 日に衆院を解散し、15 日公示、27 日投開票の総選挙をおこなうことを表明しました。党利党略の早期解散は、石破新政権が裏金問題でも経済無策でも軍拡路線でも議会制民主主義破壊でも、早くも行き詰まりに陥っていると言わざるを得ません。

石破氏は総裁選で「日本を守る」「国民を守る」などのスローガンを掲げましたが、訴えた政策を見ると、日本や国民を守るどころか逆に、日本の平和や国民の暮らしをいっそう危機に陥れるものです。石破氏は総裁選政策集「5 つの柱で、未来を創り、未来を守る」のなかの「日本を守る」では、筆頭に「党是である憲法改正について、国会での議論を促進し、総理在任中の発議を実現します」としています。さらに、「地域の多国間安全保障体制の構築を主導します」として「アジア版 NATO」を提唱していることも重大です。

また、「国民を守る」の項では「労働時間ではなく成果重視への転換を官民あげて促進し」として財界の求める労働法制の規制緩和と考えを一にした主張をしていることも看過できません。今度の総選挙では自公政権に厳しい審判を下しましょう。

病院受診などに欠かせない現行の健康保険証の新規発行が廃止されるまで残り 2 カ月を切りました。政府はマイナンバーカードと一体化した保険証への移行を既定方針としていますが、利用率はいまだ 1 割程度に低迷しています。

マイナカードを巡っては情報が誤ってひも付けされるトラブルが相次ぎ、保険証移行に対する国民の不信感は根強いものがあります。デジタルに不慣れな高齢層の不安も尽きません。当初は現行の健康保険証との選択制だったはずですが、事実上義務化した経緯も不透明なままです。

総裁選ではマイナ保険証への一本化を巡り、石破首相が「納得しない人がいっぱいいれば、併用も選択肢として当然だ」と発言し、林芳正官房長官も廃止期限も含めて「必要な見直しを行いたい」と述べていましたが、石破内閣でデジタル相に就任した平将明氏は健康保険証を 12 月 2 日に廃止してマイナンバーカードに原則一本化する政府方針を「堅持する」と述べています。

マイナ保険証でトラブルが生じた場合、現行の健康保険証で資格確認をしています。それならば、多額の税金を投入してマイナ保険証に移行するのではなく、現行の健康保険証を存続すればよいはずです。

全教はこの問題でも他の民主団体とともに「健康保険証を残せ」の声をあげ続けます。

貴会の大会が盛会のうちに終わられることを心より祈念し、メッセージといたします。

2024 年 10 月 27 日

全日本教職員組合
中央執行委員長　宮下　直樹

2024年10月

一般社団法人
全国心臓病の子どもを守る会 御中

社会福祉法人
全国心身障害児福祉財団
理事長　　伍 藤　忠 春

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会 第 62 回全国大会 の開催を、心よりお慶び申し上げます。
また、貴会が長年にわたり心臓病を抱える子どもとご家族を支える活動を続けておられますことに深い敬意を表します。

今回の大会において「心臓病だけど働きたい！仕事と健康、両立の秘訣～企業と産業医と私のホンネ～」というテーマは、働く意欲がありながら疾病や障害のためにその思いが十分にかなえられないすべての方々にとって大変重要なテーマであり、私達皆がより良い環境に向けて取り組んで行かなければならない課題であると思っております。

実り多い大会となりますことをお祈りしますとともに、一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会の今後のますますのご発展と会員の皆さま、関係者各位のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

2024 年 10 月 18 日

一般社団法人 全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤　麻美　様

公益社団法人　全国脊髄損傷者連合会
代表理事　大濱　眞

第６２回全国大会へのメッセージ

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会 第６２回全国大会「心臓病だけど働きたい！仕事と健康、両立の秘訣～企業と産業医とわたしのホンネ～」の開催、誠におめでとうございます。

長いライフスパンの中で抱える様々な問題の解決に向けて、心臓病の子どもを守る会の皆様方の弛まぬご努力に心より敬意を表します。今回は、特に成人期を迎えた多くの患者様の仕事と健康の両立という難しい問題について取り組まれるという大変重要な会であると存じます。

今大会が、患者・ご家族の皆さまにとって、実り多き会でありますよう祈念申し上げてメッセージとさせていただきます。

メッセージ

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会第 62 回全国大会の開催おめでとうございます。

全日本民医連は、2024 年衆議院選挙にあたり、憲法に基づく人権としての医療・介護の実現、公正な税制による格差の是正、社会保障の拡充を求め、いのち最優先の政治への転換を訴えています。戦争の準備はやめて、いのちとくらしにお金を使う国へと転換させましょう。

マイナ保険証への移行についての混乱がますます顕在化してきています。全国 18 地方紙が 8 月に合同のアンケート調査を実施し、その結果が先月、全国一斉に報道されました。今後の在り方についての三択で、「現行の保険証をなくしてマイナ保険証に一本化」を選択した人は 2 割に満たず、「現行の保険証を残して選択制に」「現行の保険証を残してマイナ保険証の導入をやめる」がそれぞれ約 4 割となり計 8 割が現行保険証を残すことを求めていることが判明しました。現行保険証を残し、すべてのひとに受療権を保障することが必要です。

全日本民医連は、国民のいのちと健康を守るため、大軍拡ではなく、ケアを最優先する政治の転換を求めます。また、医療・社会保障の市場化を許さず、「新しい福祉国家」を展望して、消費税に頼らない社会保障の充実、原発再稼働反対、日本の医・食・住・環境を守るとりくみを進めます。そして、健康権・生存権保障を求める大きな共同を広げるために世界の人々と幅広く連帯し奮闘する決意です。

貴大会が、豊かな討議と交流で成功し、益々発展されますよう祈念しメッセージとさせていただきます。

2024 年 10 月吉日

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会　御中

全日本民主医療機関連合会

会長　増田　剛

第62回「全国心臓病の子どもを守る会」全国大会によせて

　一般社団法人 全国心臓病の子どもを守る会 第62回全国大会「心臓病だけど働きたい！　～企業と産業医とわたしのホンネ」の開催、誠におめでとうございます。

　守る会の皆様方のたゆまぬご努力が、心臓病の子どもたちやご家族の方々の大きな励みとなっていることに、心より敬意を表します。今大会が、子どもたちの豊かな成長とご家族の未来を広げ、仕事と健康の両立につながるよう祈念申しあげ、メッセージといたします。

社会福祉法人全国社会福祉協議会 障害関係団体連絡協議会　会長　阿部 一彦

2024年9月19日

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤 麻美　様

一般社団法人　全国腎臓病協議会
会長　池田　充

第62回全国大会について

拝啓　日頃は当会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度は第62回全国大会のご案内を頂きありがとうございます。別紙のとおりメッセージを送付させて頂きます。ご参加された皆様にご披露いただければ幸いです。

貴会の今大会のご盛会を祈念申しあげます。

敬具

メッセージ

第62回全国大会の開催を心よりお慶び申し上げます。

貴会が永年にわたり、心臓病児の療養環境の整備・向上を目指し、運動を進めてこられたことに改めて敬意を表します。

心臓病をもち生まれた子どもであっても、誰もが社会に出て自立した生活が送ることのできる力を身に着け、豊かな生活を送る事が出来る社会にむけ、共に歩みを進めていきたいと思います。

貴会のますますのご発展と今大会のご成功を祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせて頂きます。

2024年10月27日

一般社団法人　全国腎臓病協議会
会長　池田　充

全国心臓病の子どもを守る会　御中

全国心臓病の子どもを守る会第 62 回記念全国大会「臓病だけど働きたい！仕事と健康、両立の秘訣～企業と産業医と私のホンネ」のご開催、誠におめでとうございます。

日頃、心臓病児とその家族を取り巻く社会保障制度の改善や、すべての病児者が安心して医療を受けられることに対して尽力されていることに、深く敬意を表します。

貴会は物価高騰など多くの国民の暮らしや命が脅かされている中で、患者と家族を取り巻くさまざまな問題の解決に向け、次世代へのメッセージとして発信されています。また、患者・家族への福祉を考えるための生活実態アンケート調査を行い、成人期を迎えた患者の生活の難しい現状と課題が明らかにされています。

今回の第 62 回記念全国大会で学び、共有した内容が、今後の心臓病児者の未来へ大きな礎となり、新たな「全国心臓病の子どもを守る会」発展の大きな一歩となりますように、心からお祈り申し上げます。

2024 年 10 月 27 日

全国生活と健康を守る会連合会（全生連）

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤麻美様

日本肝臓病患者団体協議会
代表幹事　渡辺　孝
代表幹事　山本宗男
代表幹事　川田義広
代表幹事　米澤敦子

第 62 回全国大会への祝辞

拝啓　第 62 回全国大会の開催を心からお祝い申し上げます。

ここ数年はコロナに今夏は過去にない暑さと気候変動による水害に苦しみましたが、貴会におかれましては毎年欠かさずに全国大会を力強く催されていることに敬意を表します。

私たちの日本肝臓病患者団体協議会（日肝協）は、昨年より世界肝炎デーのイベント「世界・日本肝炎デーフォーラム」の対面開催が可能となり、今年も成功裏に終えることができました。世界肝炎連盟の提唱に応じ「2030 年に肝炎エリミネーション達成」という崇高な目標を掲げ盛り上がりを感じているところです。貴会の全国大会も、会員の皆様方の総意に力強さが加わったように感じられます。

貴会も私たちの会も、同じく医療の進歩と患者への福祉の向上を命題に挙げております。「心臓病の子どもが将来自立した人生が送れるような社会」を求める 60 年にも及ぶ活動に加えて、「心臓病だけど働きたい」というメッセージを打ち出されたことは力強く胸を打ちます。親御さんの切実な想いが、一歩前進している証です。その想いは肝臓病患者にも共通しています。医療の進歩と治療に対する福祉と、社会に参画したいという尊い想いに私たちは連帯して声援を送ります。

今回の大会が、楽しく有意義であり貴会の皆様方の更なる結束を高める大会になりますようにお祈りいたします。　敬具

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤　麻美　様

拝啓、酷暑が過ぎやっと秋らしくなってきた今日この頃、貴会におかれましては
益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は第 62 回全国大会の開催おめでとうございます。
先天性疾患を持たれたお子様たちが大人になり、社会で自立した生活を
目指すようになられたことはとても喜ばしいことと存じます。
しかし、大人になっても遺残症や術後遠隔期の合併症・後遺症を抱える患者さんたちが多いとの現状は
本人やご家族の皆様にとっては、さぞご心配なことでしょう。
それだけに今回行われた生活実態調査は今後の働き方に対してとても意義あるものと思います。
このアンケート結果によって明らかになった現状と課題、それを雇用する側とされる側双方が
ディスカッションをすることで少しでも解決できたらと願ってやみません。
心臓病があっても働き続けられる環境がこれから少しずつでも改善されるよう貴会の益々のご発展を祈念いたします。

公益財団法人　日本ダウン症協会
代表理事　玉井　浩

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会

会 長　大澤 麻美　様

（第６２回全国大会　メッセージ）

全国大会のご盛会をお祝い申し上げます。併せて貴会の益々のご発展と、皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

今年、脳死者から提供された臓器の移植手術を行う大学病院が臓器の受け入れを断念せざる得ないという問題が起こっているとの報道がありました。

私たちが目指すものは、安定した社会の中で、安心の医療制度、判り易い社会制度で、災害時でも怯まない暮らしでなければなりません。

患者・障害者の会が活動すること、現状を社会に訴えることが第一歩です。

大きな声を出して未来に繋げる社会制度の実現を訴えましょう。

私たちのいのちと暮らしを守り、笑顔が見える社会制度の充実と臓器移植推進を目指し、ともに力を合わせ、声を合わせて活動をしていきましょう。

令和　６年１０月１８日

特定非営利活動法人日本移植者協議会

理事長　中井　真一

「第 62 回全国大会　心臓病だけど働きたい！仕事と健康、両立の秘訣
～企業と産業医と私のホンネ～」へのメッセージ

本日、一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会「第 62 回全国大会　心臓病だけど働きたい！仕事と健康、両立の秘訣～企業と産業医と私のホンネ～」が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

2010 年 7 月 17 日に臓器の移植に関する法律の一部を改正する法律が全面施行されてから 14 年が経ちました。改正法では家族の承諾のみによる脳死下臓器提供及び 15 歳未満の小児からの脳死下臓器提供が可能となりました。2023 年においては、脳死下での臓器提供が 131 例、心停止下での臓器提供が 18 例となり、592 名の方々に移植がされました。

しかしながら、依然として 16,000 名を超える患者の方々が当社団に登録され、移植を待ち望ぞまれている状況にあり、毎年増え続ける患者数に対し、日本の移植件数は世界各国より少ない現状にあります。

私ども公益社団法人日本臓器移植ネットワークは、臓器移植医療の推進発展のため、一層の努力を重ねてまいります。

本日開催されます本会が契機となりまして、皆様のあたたかいご理解とご協力により善意の提供の輪が広がり、一人でも多くの患者の方々がお元気になられるよう、本会の実り多い成果とご参集の皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

2024 年 10 月

公益社団法人　日本臓器移植ネットワーク
理事長　　横田　裕行

メッセージ

「全国心臓病の子どもを守る会」の役員、会員、関係者の皆様、この度、第 62 回全国大会の開催、誠におめでとうございます。

特に、今回の大会では、「心臓病だけど働きたい！～企業と産業医とわたしのホンネ～」というテーマを掲げ、心臓病を抱えている子どもたちが成人になっても、充実した職業生活が送ることができるために、どのようなことに取り組み、考えたらよいのかについて、たいへん重要なテーマを取り上げていると思います。今回の大会が参加される方々にとって深い学びと交流の場になることを確信しています。

今日では、以前よりも、医療、福祉、教育の制度が充実しつつありますが、心臓病の子どもをもつ親やご家族の不安は、以前と変わることなく、大きなものがあると思います。そのためにも、「全国心臓病の子どもを守る会」がこれまで取り組んできた親やご家族間の交流活動や情報提供活動に関しては今後ますます大きな役割を果たしていくことが求められていると思います。

第 62 回全国大会の盛会と「全国心臓病の子どもを守る会」の活動の今後ますますの発展を祈念しております。

公益社団法人　日本発達障害連盟　会長　　小澤　温

メ ッ セ ― ジ

全国心臓病の子どもを守る会　御中

全国心臓病の子どもを守る会第６２回全国大会の開催にあたって、みなさんに心から連帯のご挨拶を申し上げます。

長期に及んだコロナ禍のもとで、福祉職場では、感染者を出さない、感染源にならないようにと、感染防止対策の負担、不安・緊張が続いてきました。しかし、いのちをまもり社会を支える役割にふさわしい賃金・労働条件になっていません。

福祉職場では、国の制度と予算が不十分なため、人手が足りずに、休憩・休暇のほか、連絡・記録などの事務時間もとりづらく、長時間労働が業務の前提になってきました。また、国の調査でも、保育や介護、障害福祉などの福祉職員の賃金水準は全産業平均の８割程度にとどまっています。

政府は、運動と世論に押される形で、高齢者介護・障害福祉職場の賃上げ施策を開始しましたが、規模も対象も不十分です。今年度実施された介護報酬と障害福祉サービス等報酬の改定も、物価高騰を上回る賃上げと事業所の安定的な運営を保障するものになっていません。それどころか、訪問介護はその事業の存続さえ危ぶまれる事態を生んでいます。

福祉職場を支える職員の基本給の大幅な引き上げが可能となる処遇改善策の規模と対象の拡大、職員の増員の必要性を社会と政治にアピールしていくことが重要になっています。その点で、「子どもたちにもう１人保育士を」の運動が大きな反響を呼び、不十分ながらも保育士配置の最低基準の改定に結びついたことは貴重な成果です。しかし、その改善規模も不十分なうえ、経過措置として従来の運営も可能などの課題も残しています。

私たち福祉保育労は、福祉職員が専門職として働き続けられ、いのちをまもり社会を支える役割を果たせる賃金・労働条件と、権利としての社会福祉の実現をめざす共同を、みなさんと力をあわせて広げていきたいと考えています。特に、最低賃金と職員配置基準の引き上げを「社会的基準づくり」運動と位置づけて、福祉職場から声をあげていくとりくみとして広げていきます。

一人ひとりが個人として尊重され、仕事と健康の両立が権利として保障され、心臓病があっても働きつづけられる環境をつくるために、全国心臓病の子どもを守る会の全国大会のご成功と、運動のご発展を祈念し、連帯のメッセージを送らせていただきます。

２０２４年　１０月　２７日

全国福祉保育労働組合
中央執行委員長　土田　昭一

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会

会長　大澤　麻美　様

第六二回全国大会に向けて

第六二回全国大会の開催、誠におめでとうございます。

心臓病のある子どもたちとそのご家族や仲間の幸せのために活動を続けてこられた、貴会の永年にわたる精力的な活動を知るにつけ、惜しみない努力によって今大会の開催を実現されたこと、改めて敬意を表します。

今大会で貴会がかかげる「臆病だけど働きたい！　仕事と健康、両立の秘訣～企業と産業医とわたしのホンネ」というテーマは、働くことをつうじて、困難を抱えた子どもたちも社会に出て自立した生活ができる社会環境の実現を目指すものであり、心より共感します。

私どもゼンコロもまた、障害のある人の労働・雇用問題に力を入れている団体であり、慢性疾患・障害者雇用の推進に努めている貴団体の努力に、私共の活動がなんらかの形でお役に立つことを願っています。

我が国において、心臓病のある方々への理解がさらに広がり、仕事や所得が保障され、ご家族や仲間と共に充実した生活をおくれますよう、社会環境が改善されますことを強く願って、お祝いのメッセージとさせていただきます。

二〇二四年一〇月二七日

一般社団法人ゼンコロ

会長　中村　敏彦

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会様

第６２回全国大会の開催にあたり、心よりお祝い申し上げます。
全国大会でのご議論が実りの多いものとなることを期待するとともに、貴会の益々のご発展を祈念し、ご挨拶といたします。

全国保険医団体連合会
会長　竹田　智雄

VERY CARD。懸賞電報
懸賞ナンバー【4KW00662】
応募期限：お届け日より180日
詳細はこちら⇒www.verycard.net

【26266973】　電報サービス　VERY CARD　〔ベリーカード〕

第62回全国大会へのメッセージ

日本心臓ペースメーカー友の会
会長　戸川　達男

このたび、全国心臓病の子どもを守る会第62回全国大会が開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。ことに、今大会は「心臓病だけど働きたい！仕事と健康、両立の秘訣～企業、産業医とわたしのホンネ」との前向きな力強いテーマで開催されるとのことで、この言葉通りの内容が話し合われ、未来を変えていく成果に結びつくことを願っています。

一方、社会の現状はきわめて厳しく、それぞれの立場のホンネが今の文明を支配するエゴ（エゴイズム、自己本位）の力に負けて、そのしわ寄せを弱者が負わなければならないという結果になることを危惧するのです。

わたしは4年前に洞不全症候群との診断で心臓ペースメーカーを植込み、心拍動はほぼ日常生活ができるレベルを維持していますが、体は加齢変化によりさまざまな障害が起こり、運動系も感覚器も機能が低下し、ことに脳の記憶想起の機能が著しく低下し、認知症の症状のひとつの見当識障害もしばしば起こるのです。それに加えて、今の社会の多くのことが高齢者への配慮を欠いていて、デジタル化への対応も経済優先で、高齢者のためではなく高齢者に売るための開発ではないかと思うのです。

しかし、わたしのような者の不平不満などはものの数ではなく、今の文明の最大の犠牲者は未来の人たちなのです。未来の人たちは、今の時代の人々による環境破壊、気候変動、海洋汚染、持続可能なレベルをはるかに越えた世界人口などの莫大な負の遺産を負わされ、近未来の人類は絶滅の危機に直面しているのです。そこで、いま聞かなければいけないのは未来の人たちのホンネではないかと思うのです。もしいま未来の人たちのホンネを聞くことができれば、絶滅の瀬戸際の未来の人たちをなんとかして助けようという気持ちが湧き起こってくるに違いないのです。未来の人のなまの声は聞けませんが、未来の人のバーチャルな（仮想の）声でもいいのです。

たまたま、心臓ペースメーカー友の会の機関誌「かていてる」の 10 月号に、絶滅の瀬戸際の未来の人たちを救うために、未来の人のバーチャルな声を投稿してほしいという呼びかけをしました。もしも今大会のホンネの話し合いの中で、いまの時代を支配するエゴの力に負けて弱者が犠牲者にされる場面があったなら、絶滅寸前の人類をエゴの支配から救った未来の人のバーチャルな声を登場させてほしいのです。もしそのバーチャルな呼びかけによって弱者が救済されたなら、その声の主は未来の英雄として称えられるかもしれません。でもそれは目的ではなく、終着点はあくまで弱者の救済です。たとえ弱者の救済がリアルな世界では困難であっても、（バーチャルではなくリアルな）こころの世界では可能だと信じて生きることはだれにでもできるのです。陰で応援しています。共に進みましょう。